

安全を光に託して

**KOITO**

# 個人投資家の皆様へ

2024年9月1日

**株式会社小糸製作所**

東証プライム/証券コード 7276

- 01** 会社概要
- 02** 成長戦略
- 03** 第1次中期経営計画
- 04** 株主還元
- 05** 地球・社会との共生

01

# 会社概要

# 会社概要



本社外観

## 株式会社小糸製作所

### KOITO MANUFACTURING CO., LTD.

創業	1915年（大正 4年）4月
設立	1936年（昭和11年）4月
本社所在地	東京都品川区北品川5-1-18 住友不動産大崎ツインビル東館
資本金	142億70百万円（2024年3月末現在）
従業員数	連結 23,807名（2024年3月末現在）
事業内容	自動車照明器、航空機部品、 電子装置・部品などの製造・販売

# 数字で見るKOITO

**KOITO**

2025年  
創業  
110周年



国内シェア  
ヘッドランプ

約60%

👑 国内No.1



海外シェア  
ヘッドランプ

約20%

👑 グローバルNo.1



時価総額

6,423億円

(2024年8月23日現在)



自己資本比率

69.6%

(2024年3月期)



配当利回り

2.7%

(2024年8月23日現在)

# KOITOの歩み

- KOITOの創業は日本で初めて鉄道信号灯用フレネルレンズを開発・生産したことに始まる
- 企業メッセージ「安全を光に託して」のもと「光」をテーマとした製品・サービスで社会の安全・安心に貢献

1915年

1957年

1978年

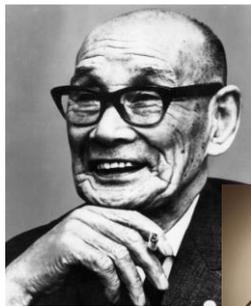
1996年

小糸源六郎商店創業  
(東京 京橋)

オールガラス  
シールドビーム(SB)  
ヘッドランプ  
生産・販売開始

ハロゲン ヘッドランプ  
生産・販売開始

ディスチャージ  
ヘッドランプ  
生産・販売開始



提供：トヨタ博物館



# KOITOの歩み

- 世界初、日本初の製品を生み出し、自動車照明機器のリーディングカンパニーとして成長
- 同時に交通事故防止や、環境負荷の低減など、社会課題の解決に貢献

2007年

世界初

LEDヘッドランプ  
生産・販売開始



ランプの  
明るさ向上・省電力化

2012年

日本初

ADB生産・販売開始  
(Adaptive Driving Beam)



夜間走行の安全性向上

2019年

世界初

ブレードスキャン  
ADB生産・販売開始



少ないLEDで高精細な配光

# 事業領域と製品ラインナップ

主力の自動車照明器は多様なニーズ／デザインに対応

 自動車



Headlamps



Rear Lamps



# 事業領域と製品ラインナップ

陸・海・空、あらゆるトランスポートの照明機器を提供

## 二輪車・トラック



## 航空機



機外照明



機内照明



## 船舶



# 事業領域と製品ラインナップ

陸・海・空、あらゆるトランスポートの照明機器を提供



## 鉄道



提供：J R東海



提供：J R東海



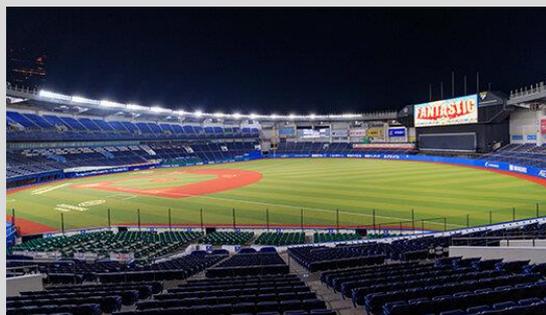
## 交通インフラ



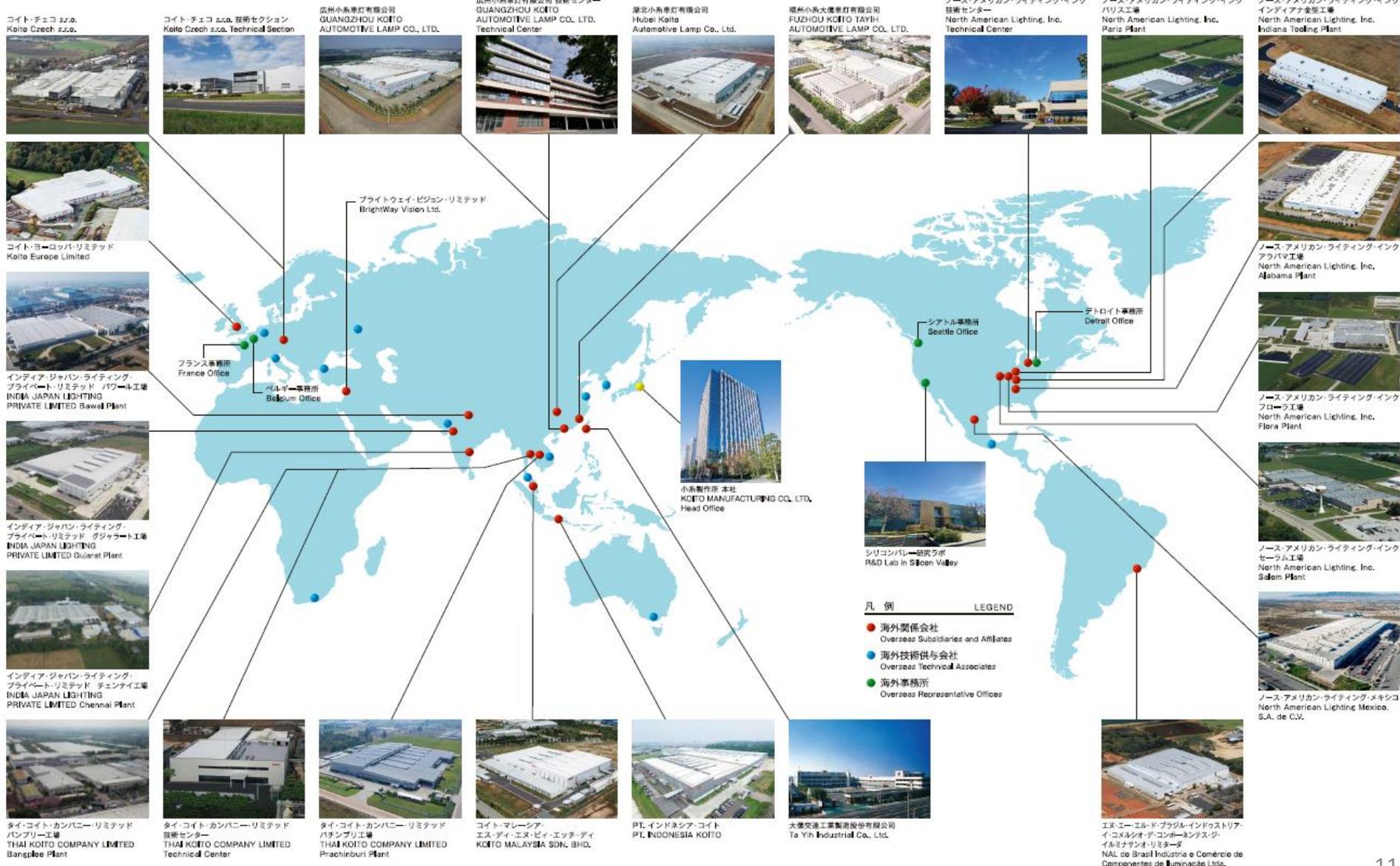
## 施設照明 他



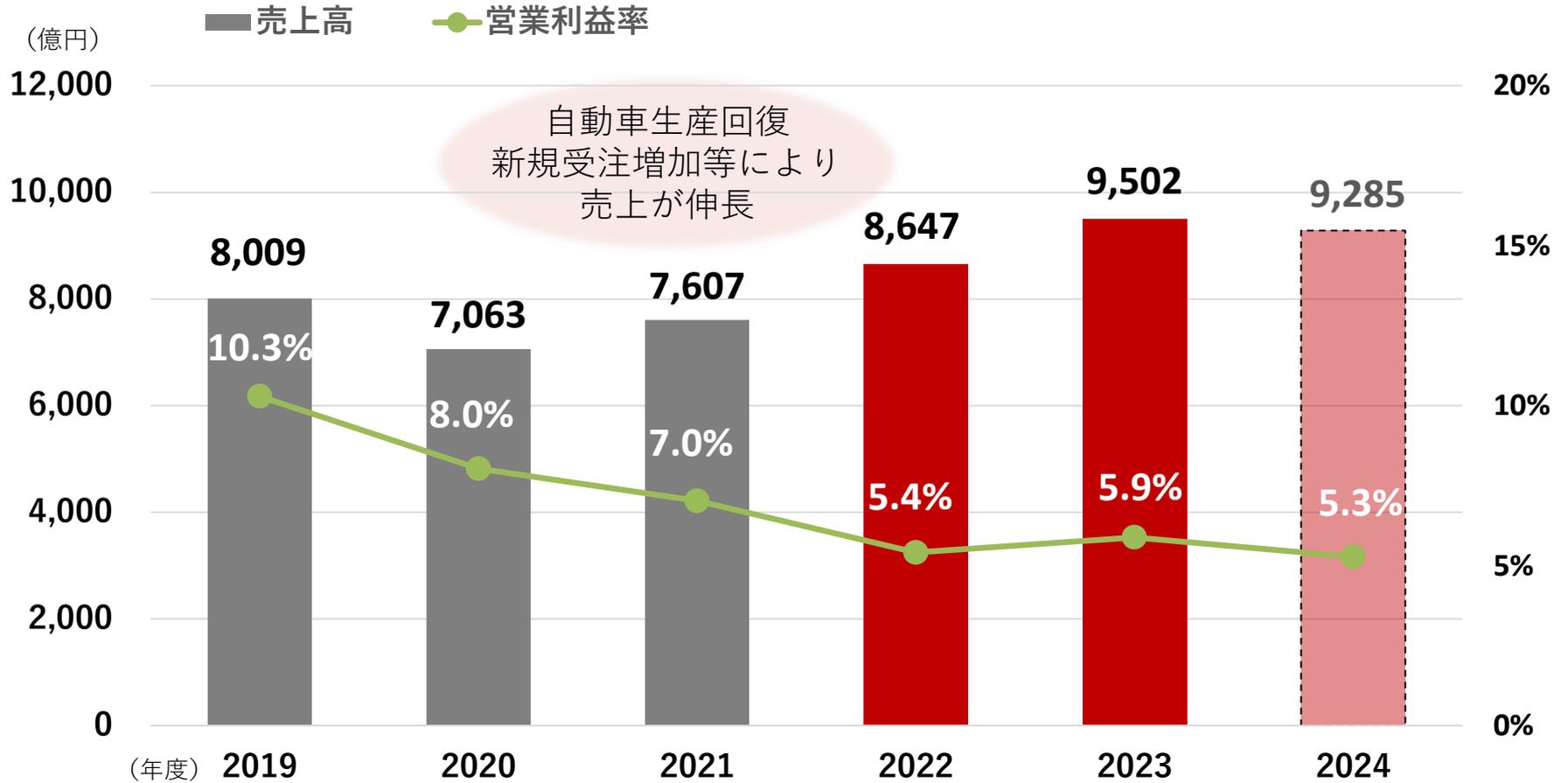
横浜ベイブリッジ/照明



# グローバルネットワーク



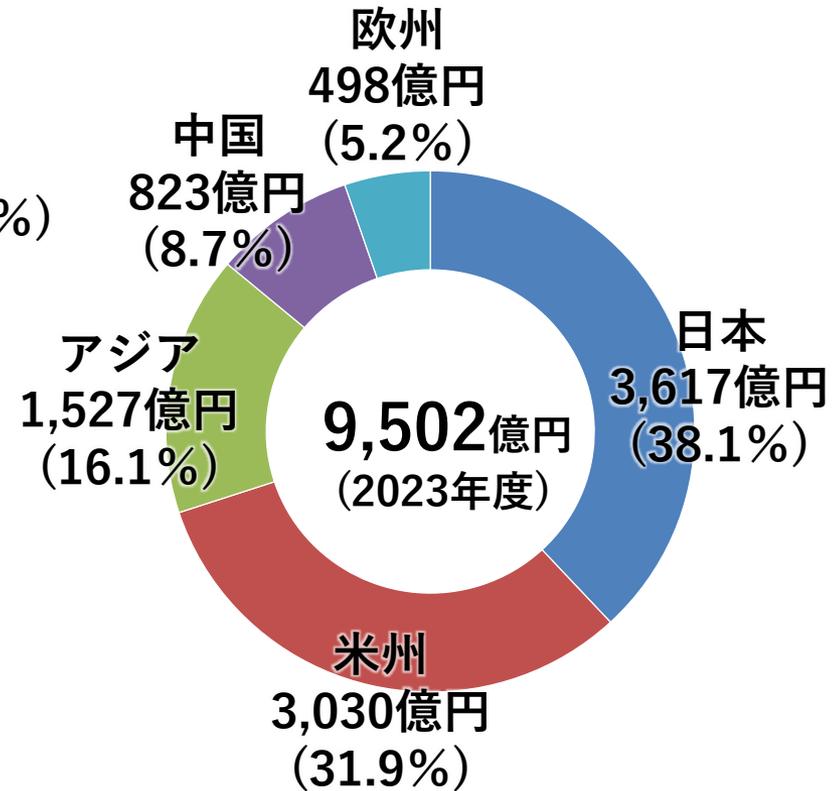
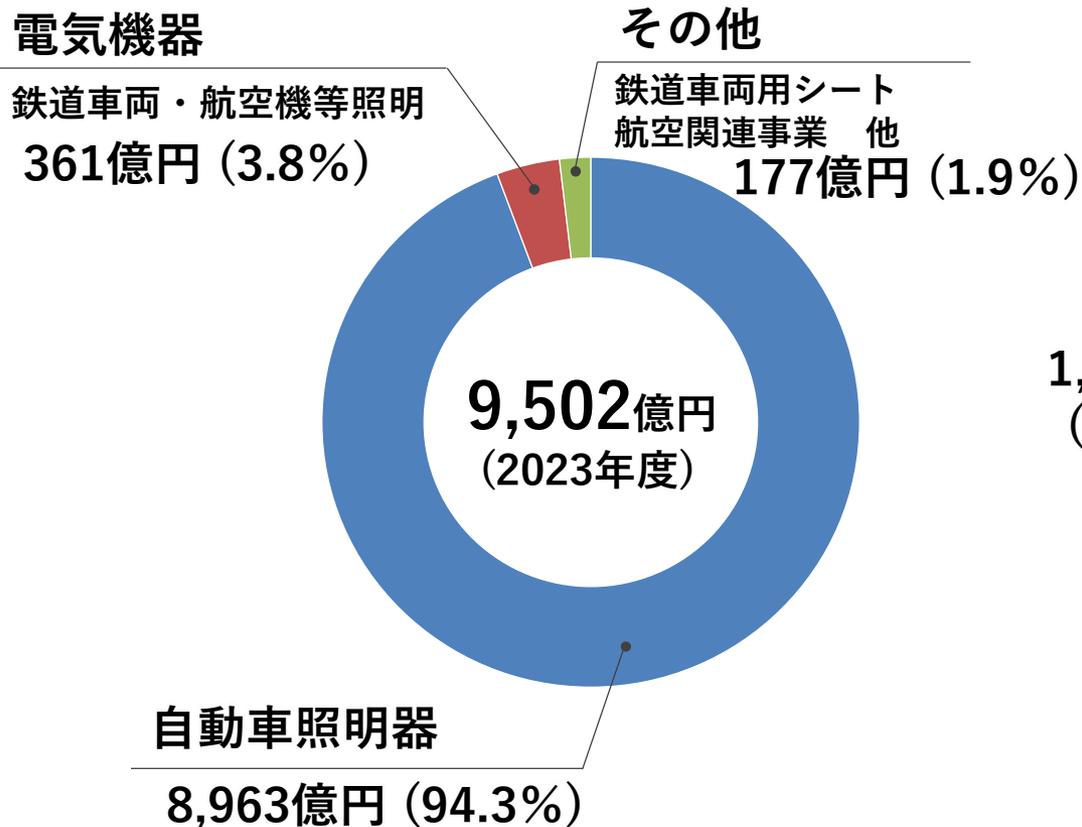
# 連結業績推移



# 売上構成（事業別・地域別）

[事業別売上構成]

[地域別構成]



# 売上構成（顧客別）



<https://www.ford.com/suvs/explorer/>

カワサキ



ヤマハ



その他  
日系



現在発売中の全モデルの  
ヘッドランプを受注

- ・レヴォーグ
- ・フォレスター
- ・クロストレック
- ・ソルテラ(EV)等

GM その他外資

Ford

9,502億円  
(2023年度)

トヨタ



- ・レクサス
- ・クラウン
- ・ハリアー
- ・プリウス
- ・bZ4X (EV) 等

レクサス、クラウン等  
大型車・高級車のランプを受注

ホンダ



グローバルモデルや  
アキュラ等のランプを受注

- ・シビック
- ・ZR-V
- ・ステップワゴン
- ・アキュラ 等



- ・セレナ
- ・スカイライン
- ・エクストレイル
- ・日産サクラ(EV) 等

グローバルモデルやEV等のランプを受注

02

# 成長戦略

# KOITO VISION

2030年に向けた成長戦略としてKOITO VISIONを策定

2030年度

営業利益率 **10%**以上

ROIC\* **10%**以上

ROE **10%**以上

\* ROIC=(営業利益-法人税等)÷期中平均投下資本

**KOITO VISION**  
～人と地球の未来を照らす～

## 企業基盤の強化

「ものづくり・人づくり」の強化・革新、BCP体制・コーポレートガバナンスの充実

### 持続的な成長

魅力ある製品のいち早い市場投入

#### [照明機器事業]

世界をリードする先進技術開発・  
新規受注拡大

#### [モビリティ新規事業]

安全な次世代モビリティ社会に  
貢献する新規事業創出

### 地球・社会との共生

社会に求められる企業

#### [地球環境]

製品ライフサイクルでの環境負荷低減

#### [人・企業風土]

価値観の尊重、挑戦し続ける  
風土・制度づくり

# 持続的な成長 | 先進技術開発

モビリティ社会の安全・安心・快適を実現する  
「光」をテーマとした製品のひろがり



## ドライバーサポート

良好な夜間視界を提供する  
ライティング技術



## センシングサポート

周囲を広く・正確に  
把握するセンサ技術



## コミュニケーション サポート

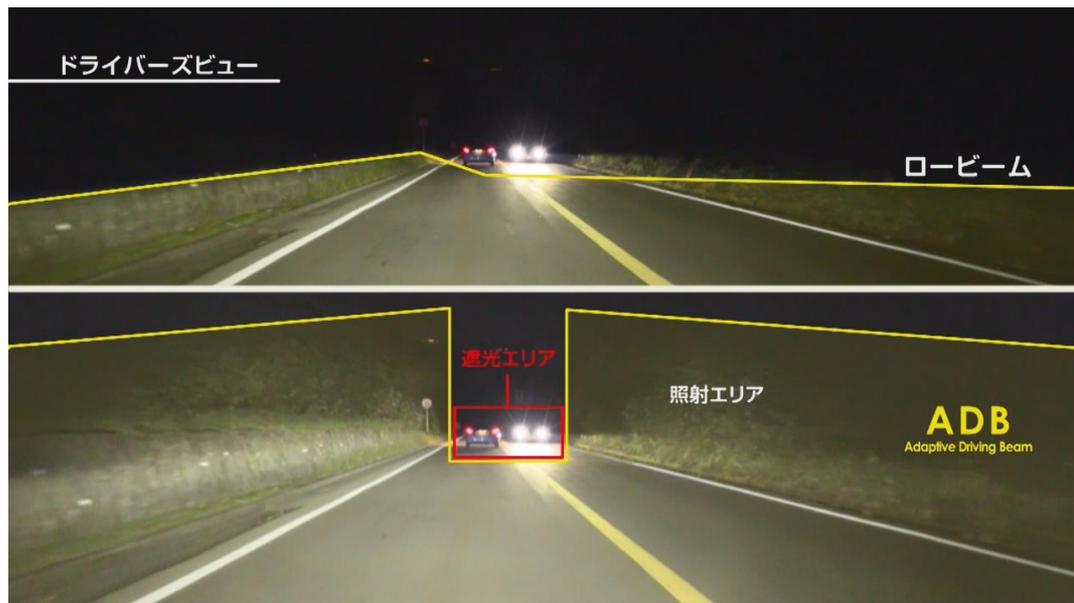
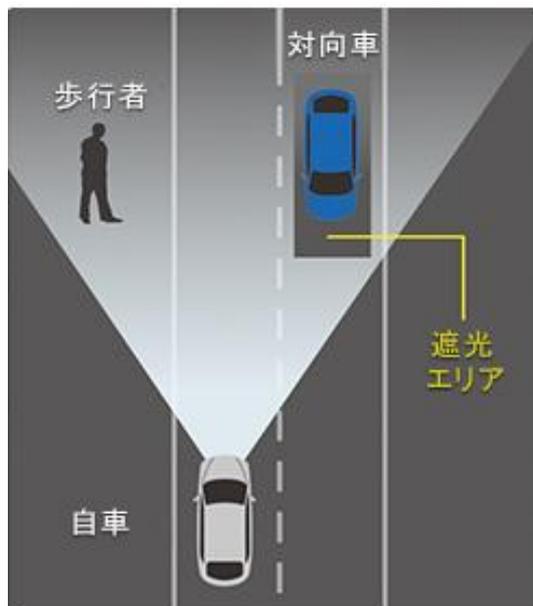
周囲とのコミュニケーションを  
可能にするライティング技術

# 持続的な成長 | 先進技術開発

## ハイビーム可変ヘッドランプ (ADB : Adaptive Driving Beam)

ドライバーサポート

自動で配光を調節し、常にハイビームで走行できる技術



前方の車両を認識  自動でその部分のみ遮光



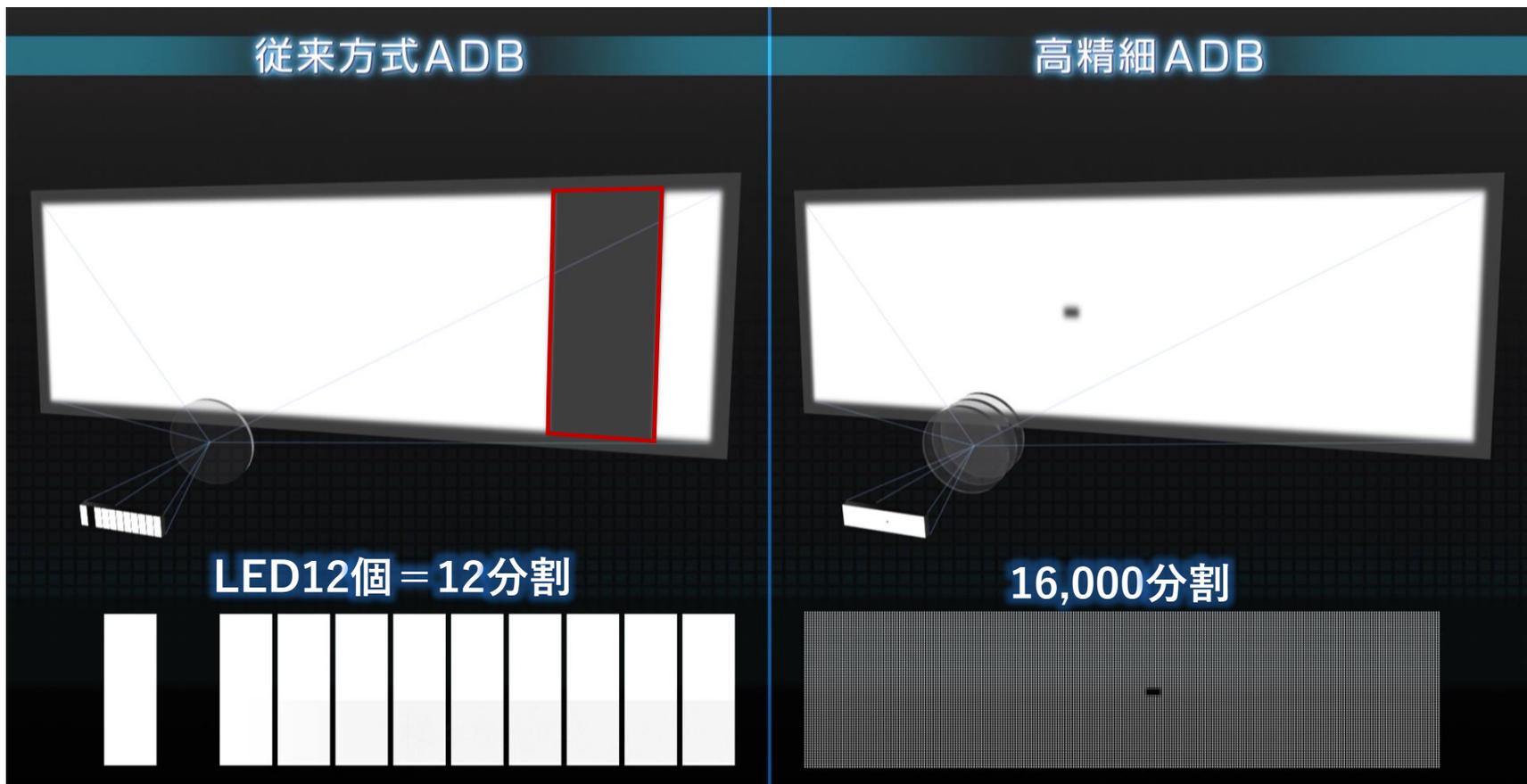
対向車を眩しくさせず、安心してハイビームで走行できる

# 持続的な成長 | 先進技術開発



## 次世代ADB

ドライバーサポート



遮光範囲が大きい



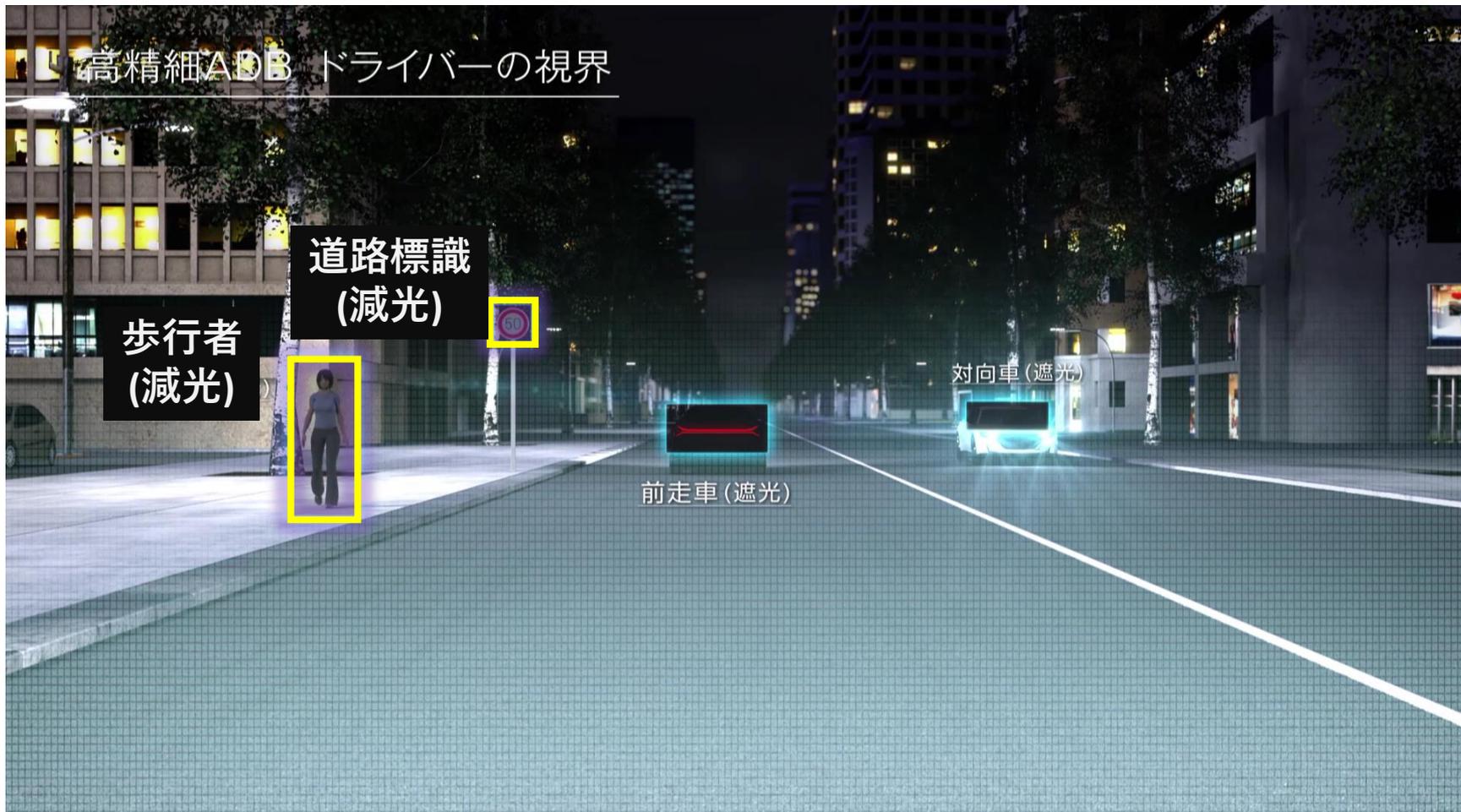
高精細な配光  
遮光の最小化・照射最大化

# 持続的な成長 | 先進技術開発



## 次世代ADB

ドライバーサポート



# 持続的な成長 | 先進技術開発



ドライバーサポート

## 交通事故低減に寄与するADBの拡販

### グローバル搭載率目標

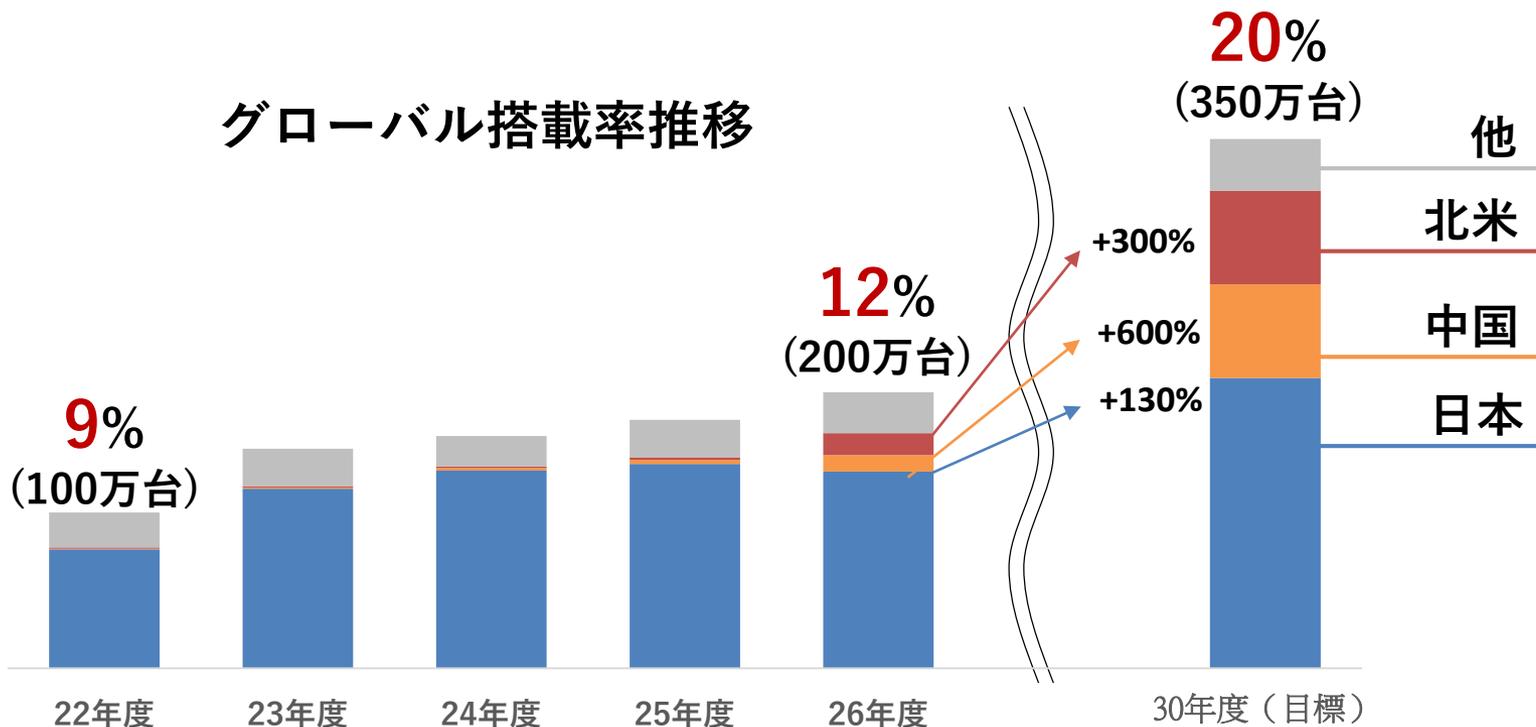
9%  
2022年度



20%以上  
2030年度目標

ADBヘッドランプの単価  
= 通常のLEDヘッドランプ × 1.7倍

### グローバル搭載率推移



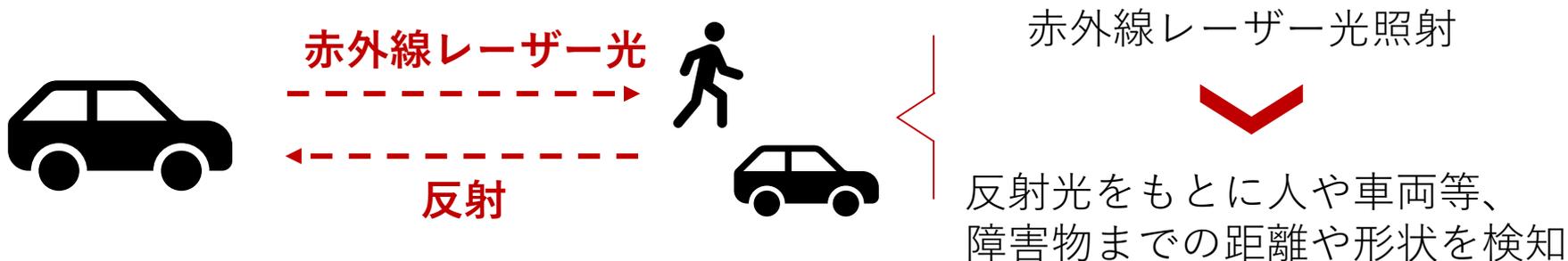
# 持続的な成長 | 先進技術開発



センシングサポート

## LiDAR (Light Detection And Ranging)

車両や歩行者の位置や距離を捉える、自動運転に必要なセンサ



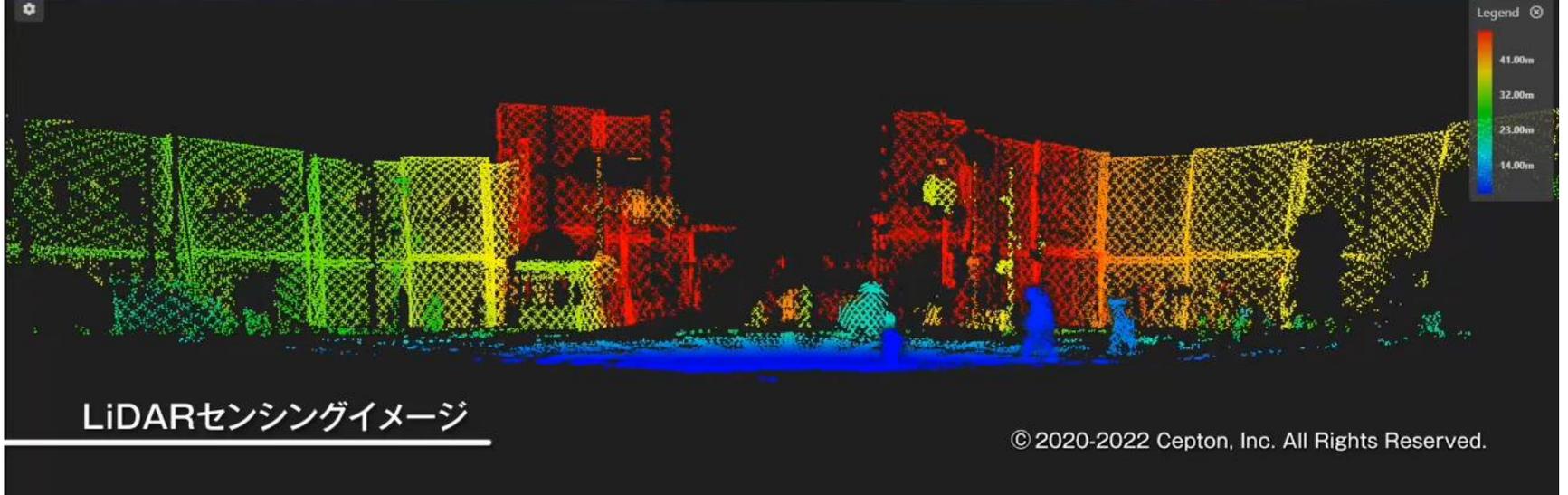
ドライバーの目に代わって遠方や周辺の人・車両を発見

# 持続的な成長 | 先進技術開発



## LiDAR

センシングサポート



© 2020-2022 Cepton, Inc. All Rights Reserved.

# 持続的な成長 | 先進技術開発



## 車載用LiDAR市場

センシングサポート

カメラ

検知距離約100m  
悪天候/夜間検知に課題

ミリ波

小さな物体検知不能



LiDAR

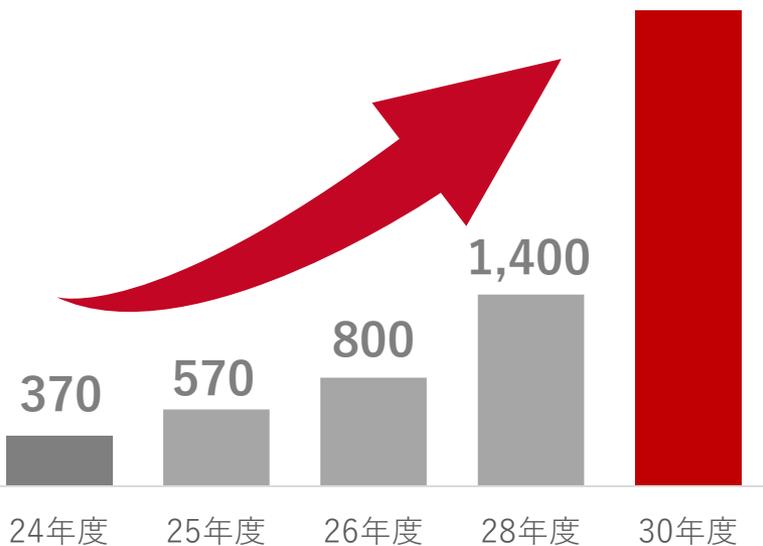
検知距離 最長約300m  
検知精度が高い  
夜間検知可能



自動運転車にはLiDAR搭載が必須

## LiDAR市場規模予想

3,500億円



## KOITOのLiDAR

- ・ 短・中・長距離LiDARのバリエーション展開により、あらゆるモビリティの周辺検知ニーズへ対応
- ・ 既にグローバル自動車メーカーの受注を獲得、その他複数得意先(乗用車/大型車/建産農機等)からも引合いあり
- ・ 2030年度 500億円の売上を目指す

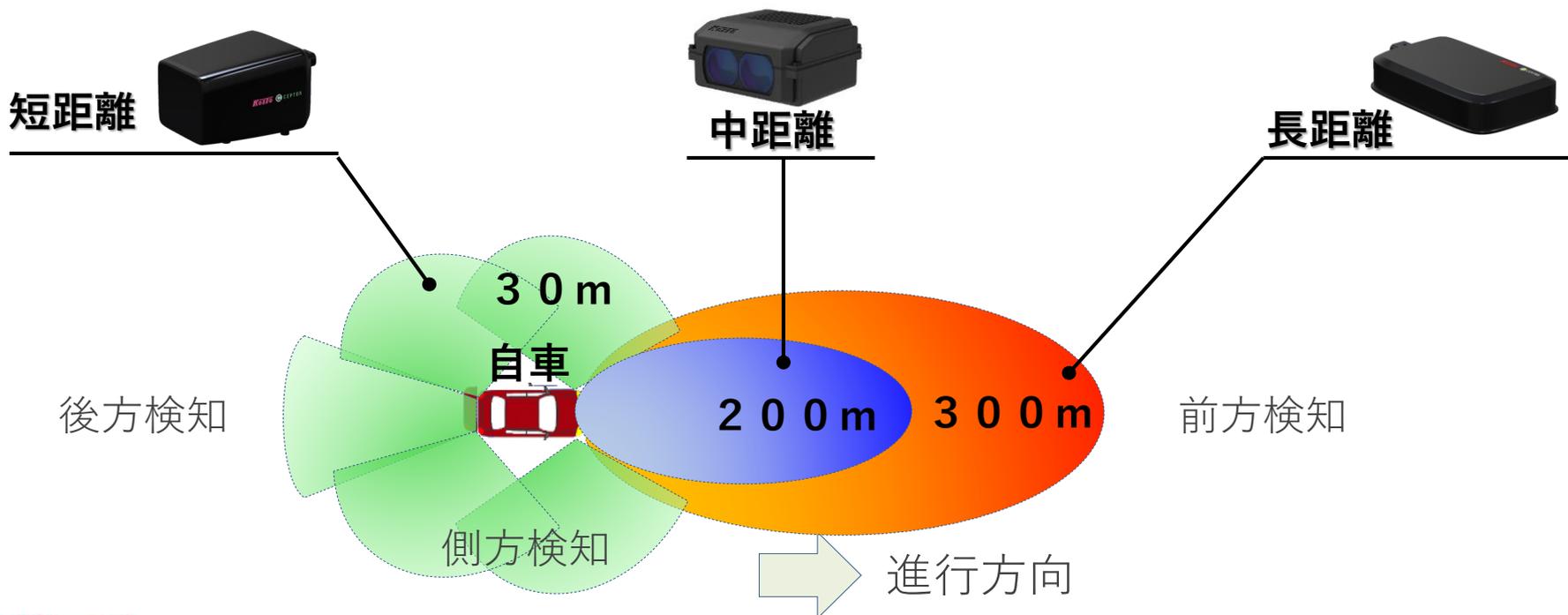
# 持続的な成長 | 先進技術開発



## KOITOのLiDAR戦略

センシングサポート

- 短・中・長距離LiDARのバリエーション展開等により、あらゆるモビリティの周辺検知ニーズへ対応
- 既にグローバル自動車メーカーの受注を獲得、その他複数得意先（乗用車/大型車/建産農機等）からも引合いあり
- **2030年度 500億円**の売上を目指す



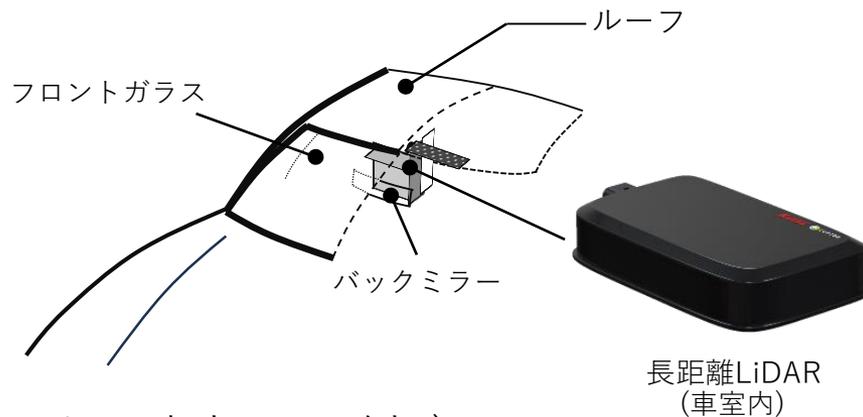
# 持続的な成長 | 先進技術開発



## KOITOのLiDARの特徴

センシングサポート

- ✓ 搭載性に優れたコンパクトな筐体  
(フロントガラス内に搭載可能)
- ✓ 優れた検知距離  
(130km/hの高速走行を想定、300m以上の遠方まで監視)
- ✓ 細かい分解能  
(250m先のタイヤ等 路上の小さな落下物を検知可能)
- ✓ 低消費電力  
(他社 長距離LiDARに比べ消費電力50%減)

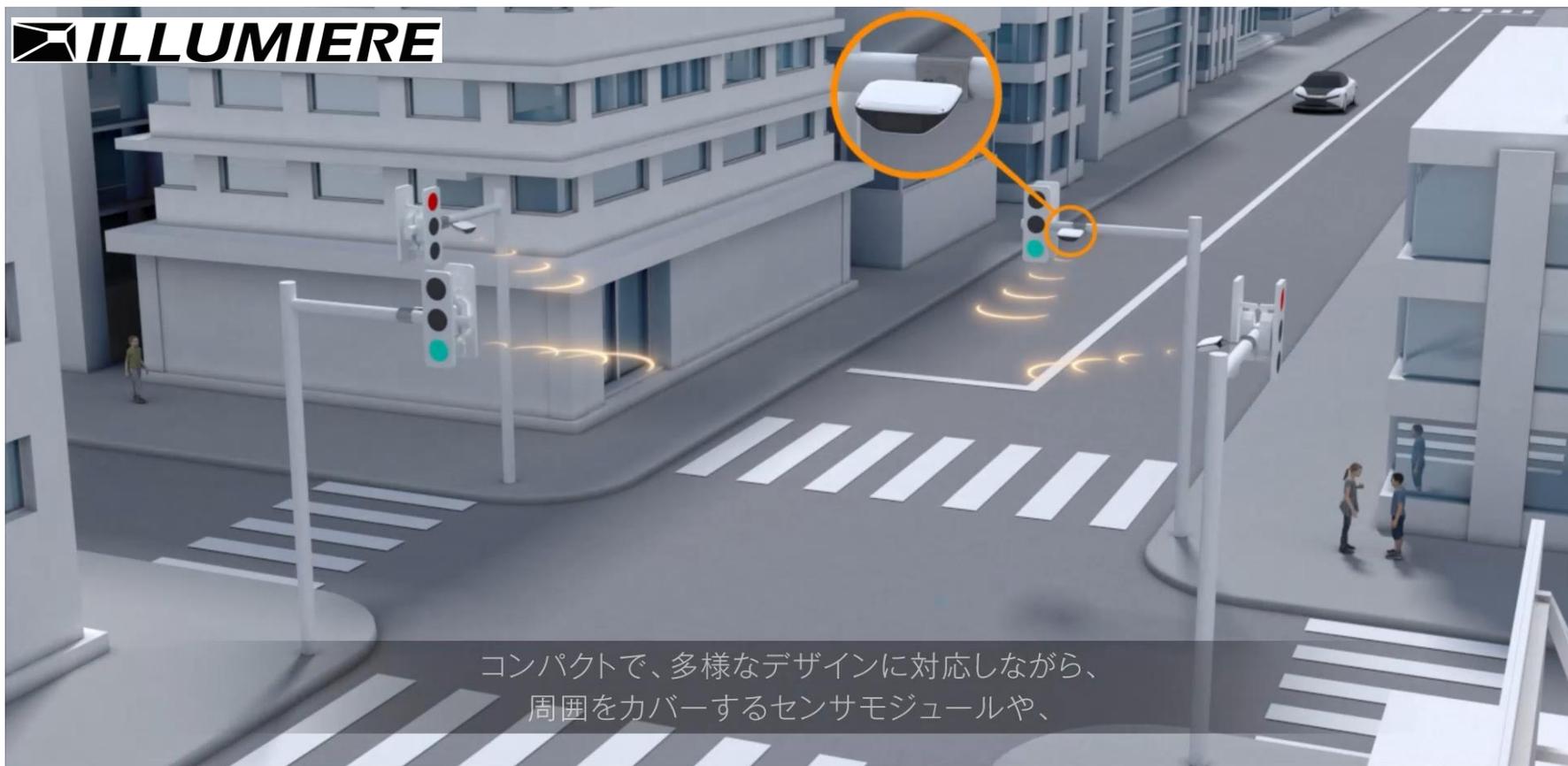


# 持続的な成長 | 先進技術開発



## 移動体検知システム「イルミエル」

センシングサポート



コンパクトで、多様なデザインに対応しながら、  
周囲をカバーするセンサモジュールや、

# 持続的な成長 | 先進技術開発



センシングサポート

乗用車だけでなく建機・農機など働くクルマ、  
インフラ用途への展開なども見据える

## トラック・建機・農機等



## インフラ

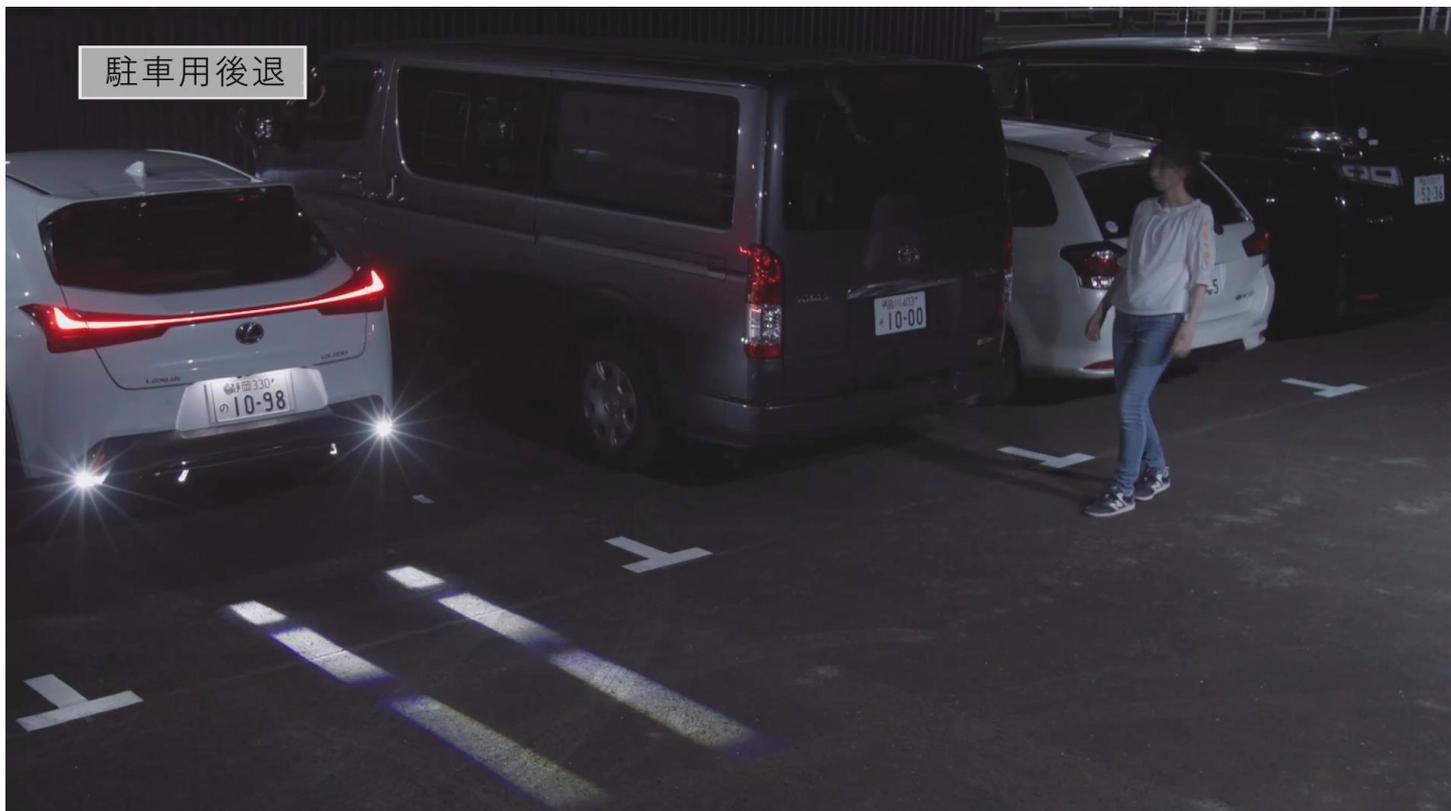


# 持続的な成長 | 先進技術開発



## 路面描画

コミュニケーション  
サポート



いち早くクルマの動きを伝え、次世代モビリティの安心に貢献

03

# 第1次中期経営計画

# 基本方針

生産ラインの自動化投資、成長投資・合理化の推進など、  
「**収益力の強化**」を図り、飛躍的な成長に向けた土台をつくる



2021～2023年度

- 新型コロナや半導体不足などによる**自動車減産**影響が徐々に緩和
- 自動車生産台数回復に伴い**売上高も回復**
- インフレ等に伴う収益悪化に対し**合理化活動**を展開

第1次中期経営計画  
(2024～2026年度)

戦略①

- 強固な**収益基盤の構築**  
(製品構造/ものづくりの革新的な見直し)

戦略②

- **売上拡大と生産体制の拡充**  
(日系売上の継続成長と非日系の拡大等)

戦略③

- 社会に求められる**製品・技術の創出**に向けた成長投資

第2次中期経営計画  
(2027～2030年度)

- 成長投資の**成果刈り取り開始**、利益成長をけん引
- 米州・中国・日本等の利益率が改善、連結営業利益率も**10%以上へ回復**

# 戦略① | 収益基盤の構築

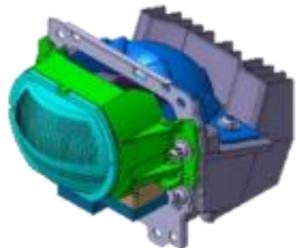
## ■ ヘッドランプの構成部品の標準化

ヘッドランプは車種によってデザイン・仕様が異なる

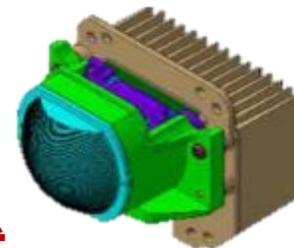


標準化により、コスト低減を図る

2022年度 現行ユニット



2026年度 次世代ユニット



原価 **50%低減**

# 戦略① | 収益基盤の構築

生産ラインの自動化等、デジタル技術の活用により  
製造費用 **30%低減を実現**

## 部 品

ヘッドランプの成形や表面処理



人の目で外観の検査



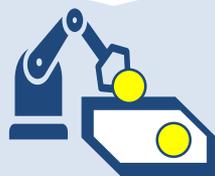
AIカメラを使って品質チェックや  
予防保全  
(未然に不良品の発生を防ぐ)

## 組 立

ヘッドランプ部品の組立て



工程の一部に手作業



ロボット等を用いて完全無人化

## 物 流

工場内の製品や部品の運搬



一部の運搬を人が担う

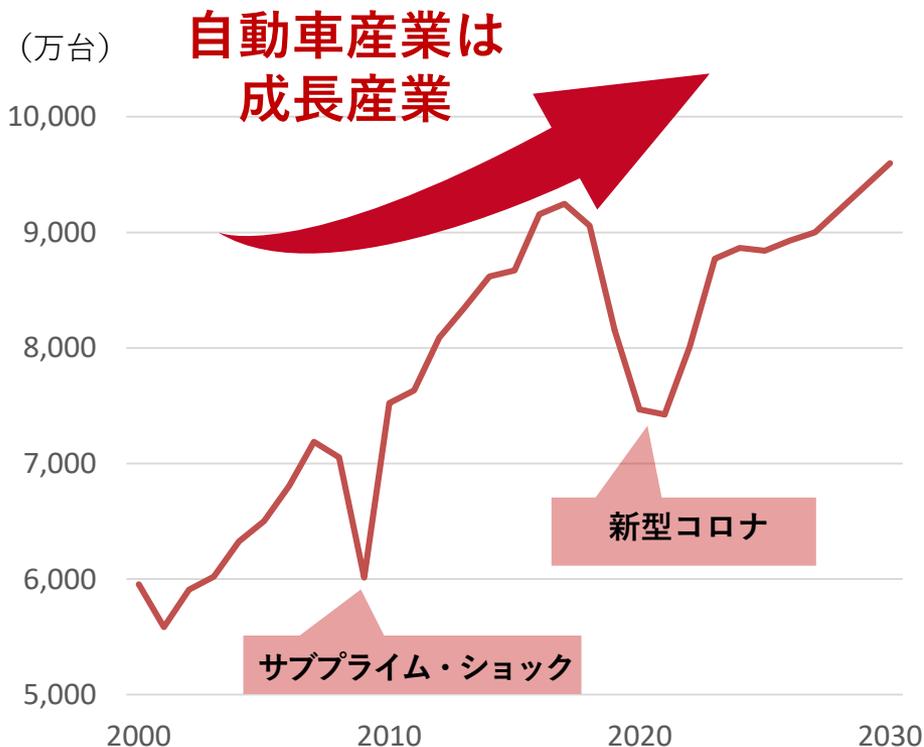


センサ等を用いて自動化

# 戦略② | 売上拡大と生産体制の拡充

- 世界自動車生産は、年100万台レベルで増加
- 新興国のモータリゼーション進展、EV化、自動運転などが成長ドライバーに

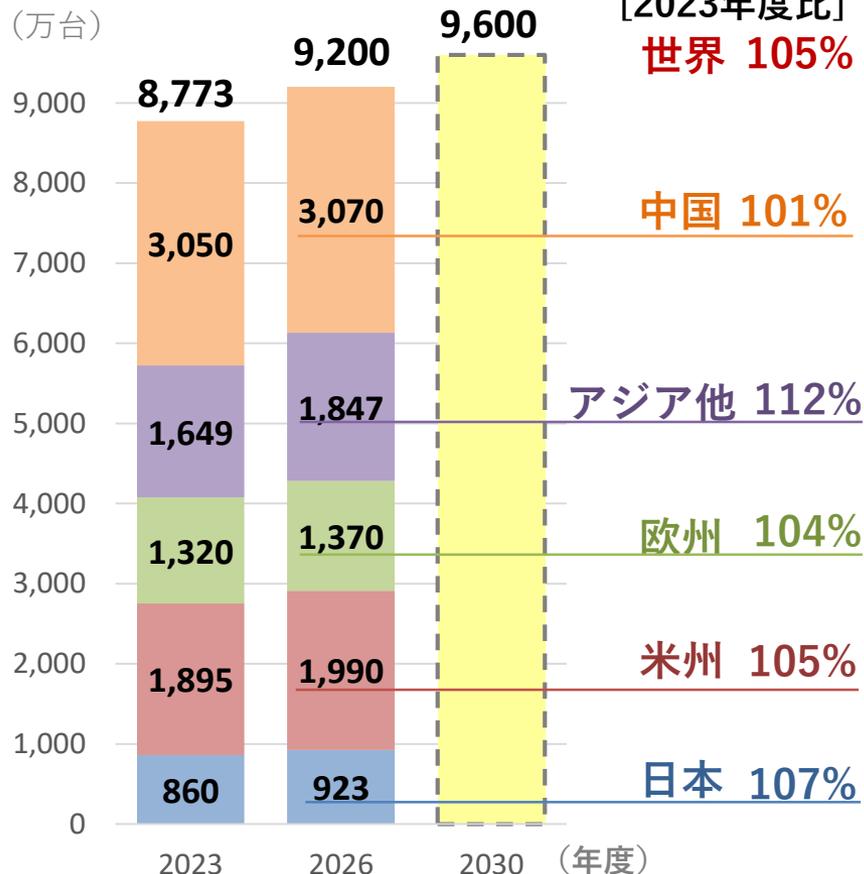
【世界自動車生産台数の推移】



※当社推計

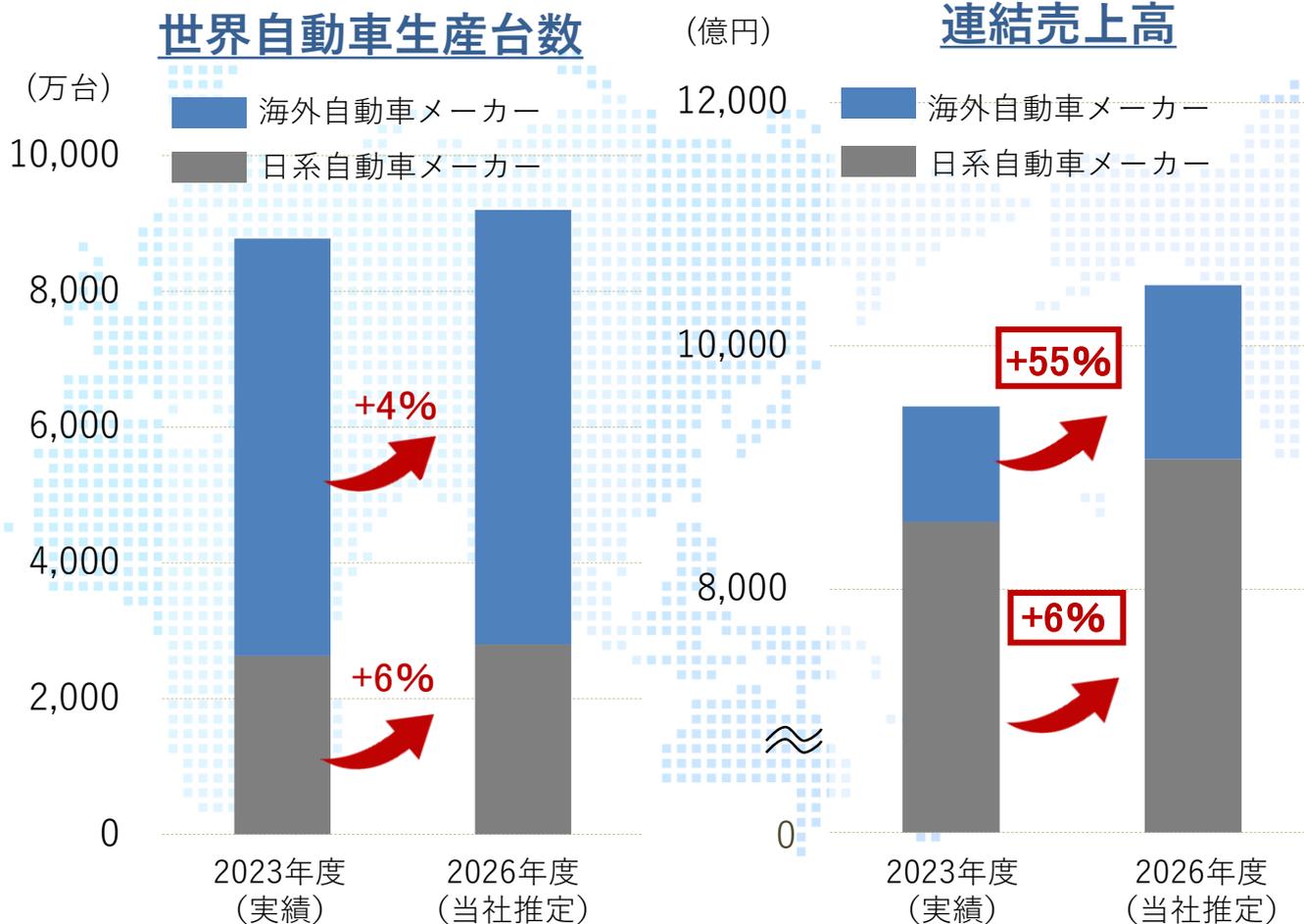
【地域別生産台数】

(万台)



# 戦略② | 売上拡大と生産体制の拡充

- 2026年度にかけて、高い成長が見込める海外自動車メーカー向けの売上を拡大



## 受注拡大の取り組み

### 北米

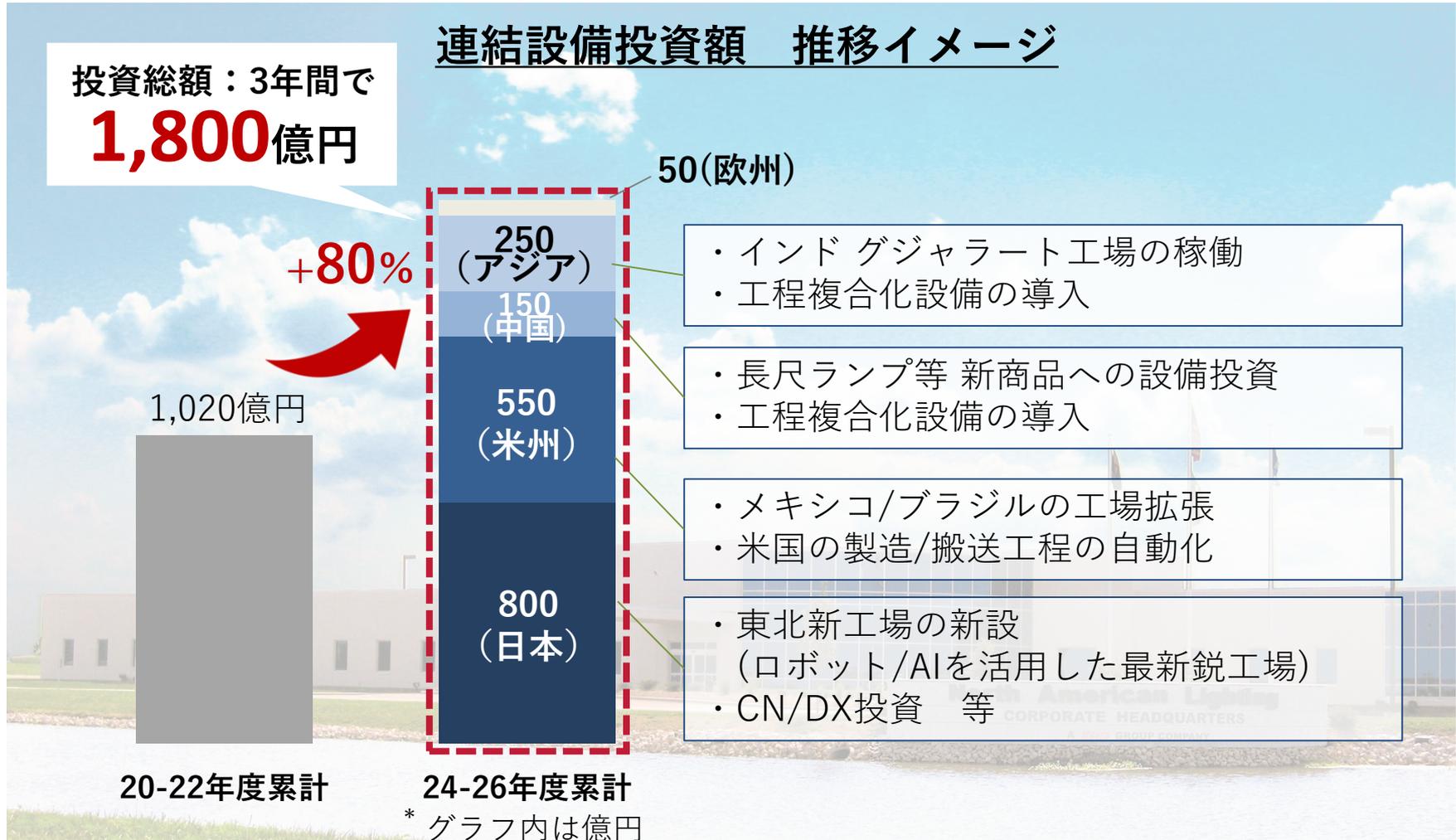
- 新規LEDユニット等、米系自動車メーカーへの積極的な新技術提案の推進
- フォードやGMの新規受注を獲得し、当社の受注シェアを伸ばす
- 2026年度の米系自動車メーカー向け売上高：2023年度比 約2倍

### インド

- LED化が進展する中、タタ向けの新規受注を獲得
- 2026年度のインド系自動車メーカー向け売上高：2023年度比 約9倍

# 戦略② | 売上拡大と生産体制の拡充

米州・アジア・中国の海外自動車メーカーを中心とした売上・シェア拡大に伴い、世界の複数拠点において生産体制を強化

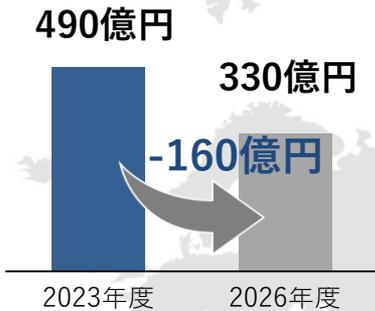


# 戦略② | 売上拡大と生産体制の拡充

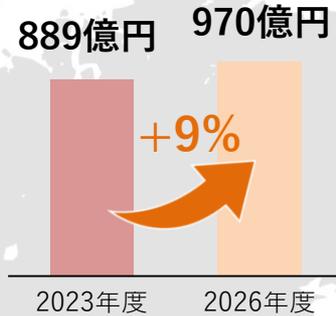
- 日系に加え、海外自動車メーカー向けの受注拡大により売上成長を目指す

## 地域別 売上高推移

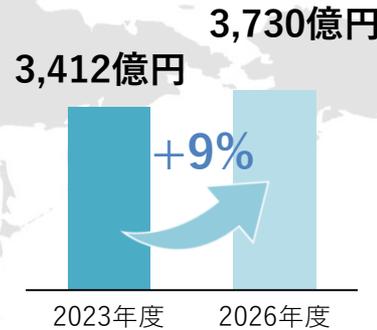
### 欧州



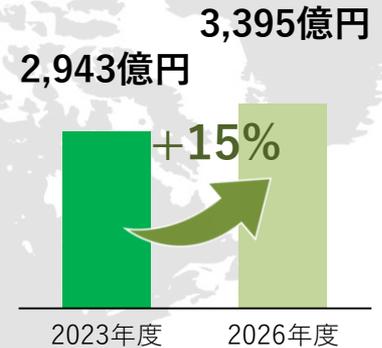
### 中国



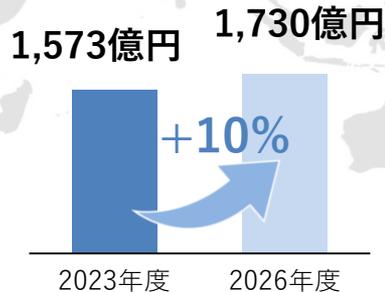
### 日本(単独)



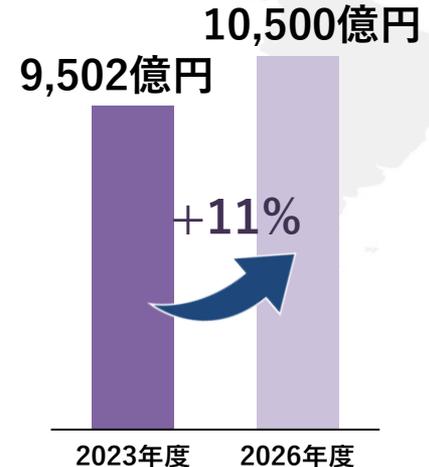
### 米州



### アジア



### 連結



\* 地域別売上高は連結消去前の数値

# 戦略③ | 社会に求められる製品・技術の創出に向けた成長投資

「光」を基本テーマに、  
モビリティ事業を中心に成長投資を実施

## 成長投資

投資総額：3年間で

**500**億円

### 自動運転

(LiDARの開発・市場投入)

### 交通インフラ

(コイト電工と協業)

### M&A

(セプトン社 子会社化等)

### カーボン ニュートラル

# 経営指標

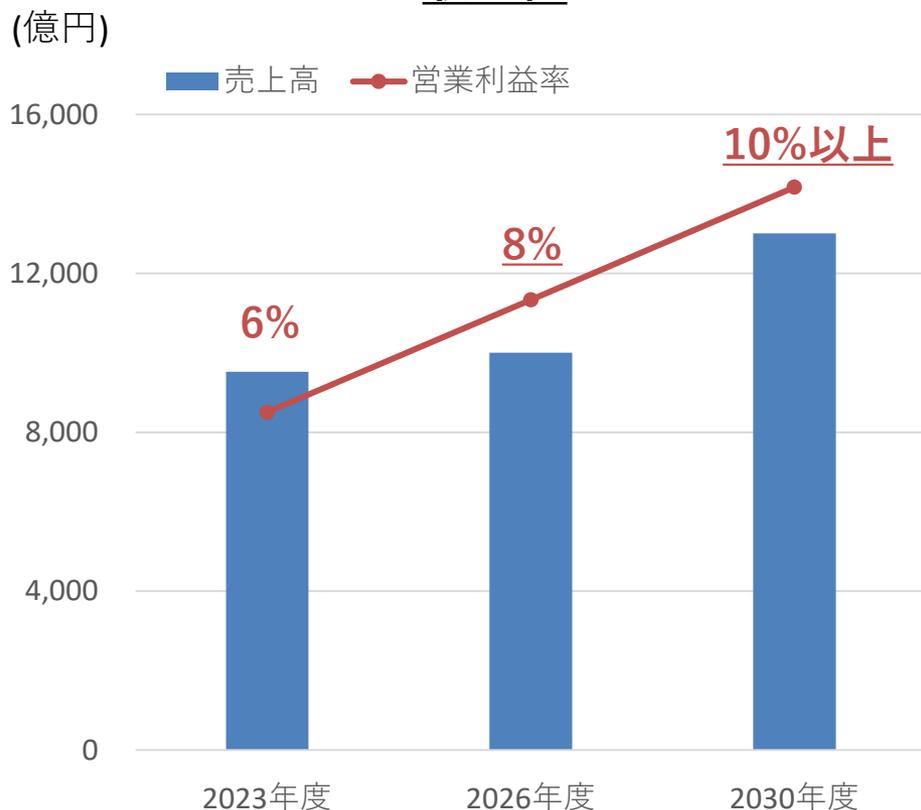
2026年度目標

売上高1兆円以上、営業利益率 8%、ROIC・ROE 9%以上

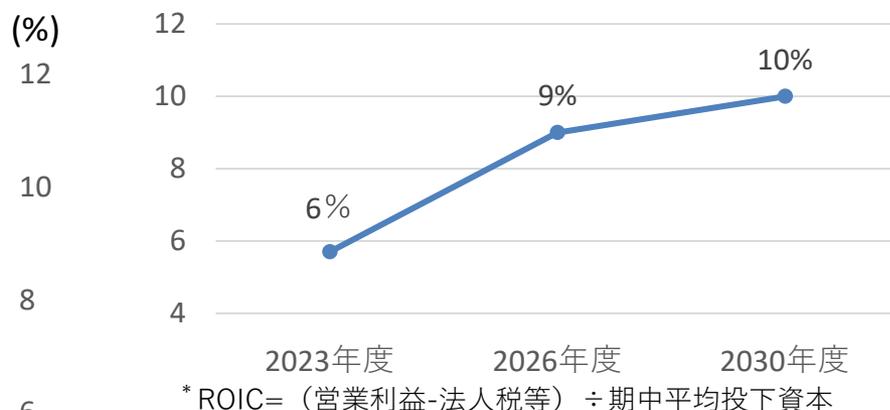
2030年度目標

営業利益率・ROIC・ROE 10%以上

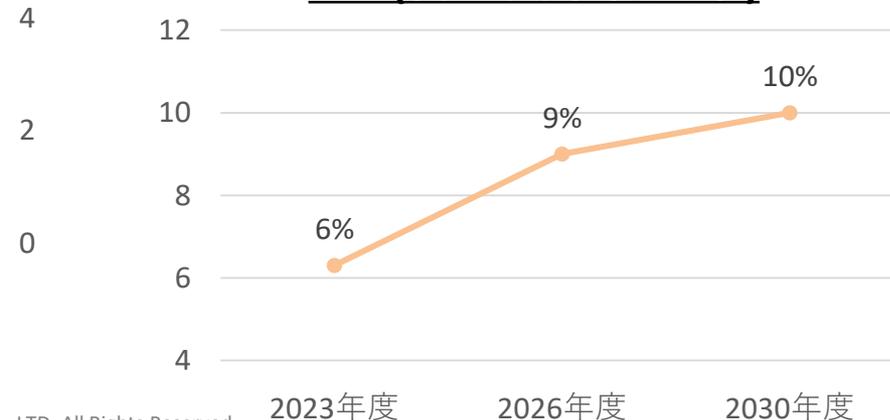
## 収益性



## ROIC(投下資本利益率)



## ROE(自己資本利益率)

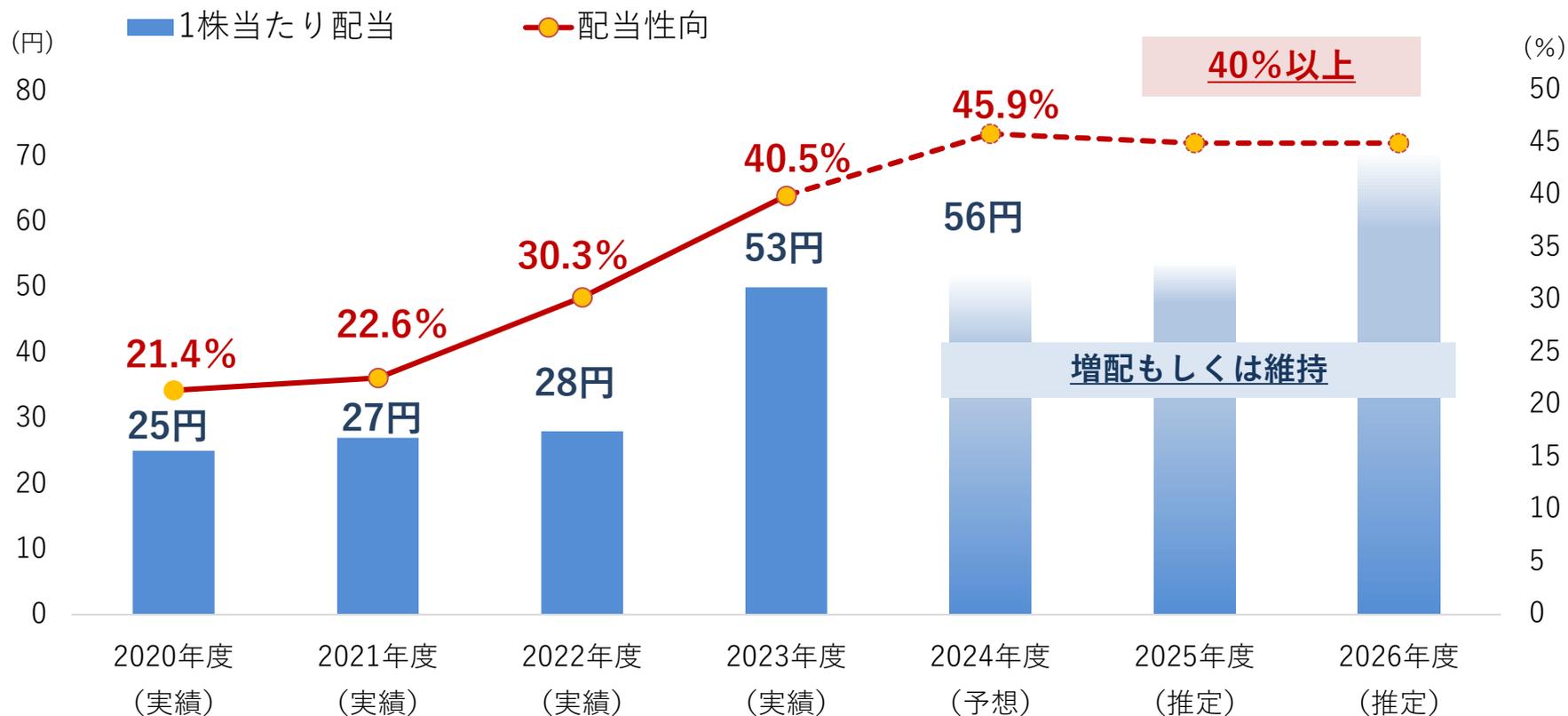


04

# 株主還元

# 配当方針

連結配当性向 40%以上、増配もしくは配当維持を基本方針とする



※2022年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

1株当たり情報は、表示されている最も古い期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

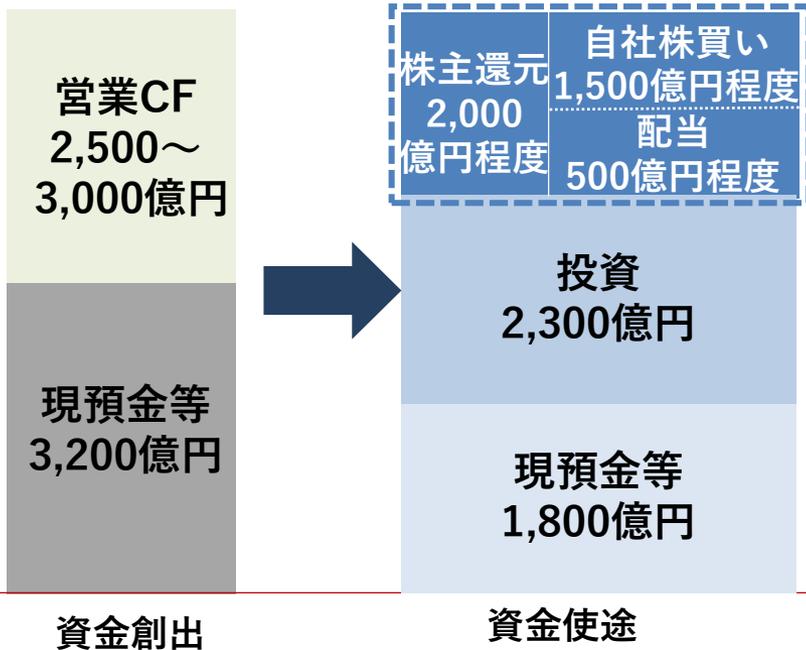
# 財務戦略

- ① 財務健全性を確保したうえで、積極的な投資を実施
- ② 資本構成適正化に向けた自己株式取得、及び配当水準の安定的向上による株主還元を実施

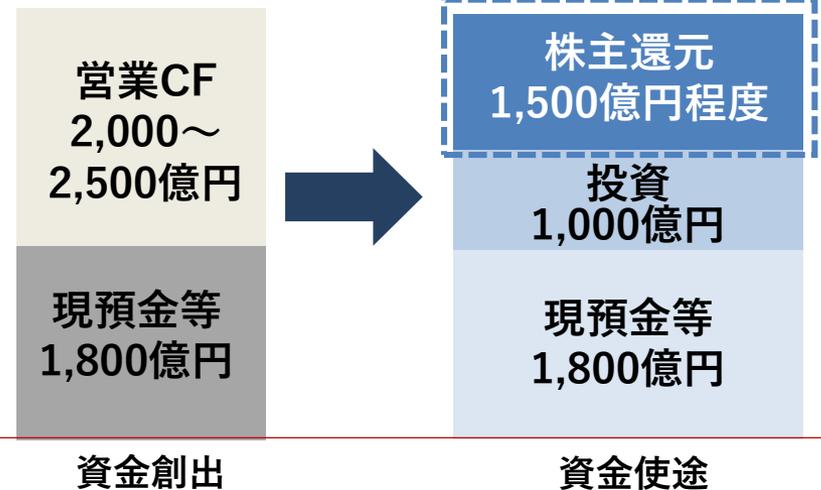
**株主還元**  
**3,500億円程度**  
2024～2028年度 (5ヶ年累計)

**総還元性向**  
**130%**  
2024～2028年度  
(5ヶ年平均)

2024～2026年度：3ヶ年累計



2027～2028年度：2ヶ年累計(推定)



05

# 地球・社会との共生

# カーボンニュートラルへの取り組み



## つくる

環境にやさしい  
素材・設備でつくる

- ・植物由来/リサイクル樹脂の活用
- ・事業所/工場における再生可能エネルギー活用
- ・複合化した設備でつくる



## はこぶ

効率良くはこぶ

- ・高い積載効率で製品を運ぶ
- ・最短ルートで運搬する



## つかう

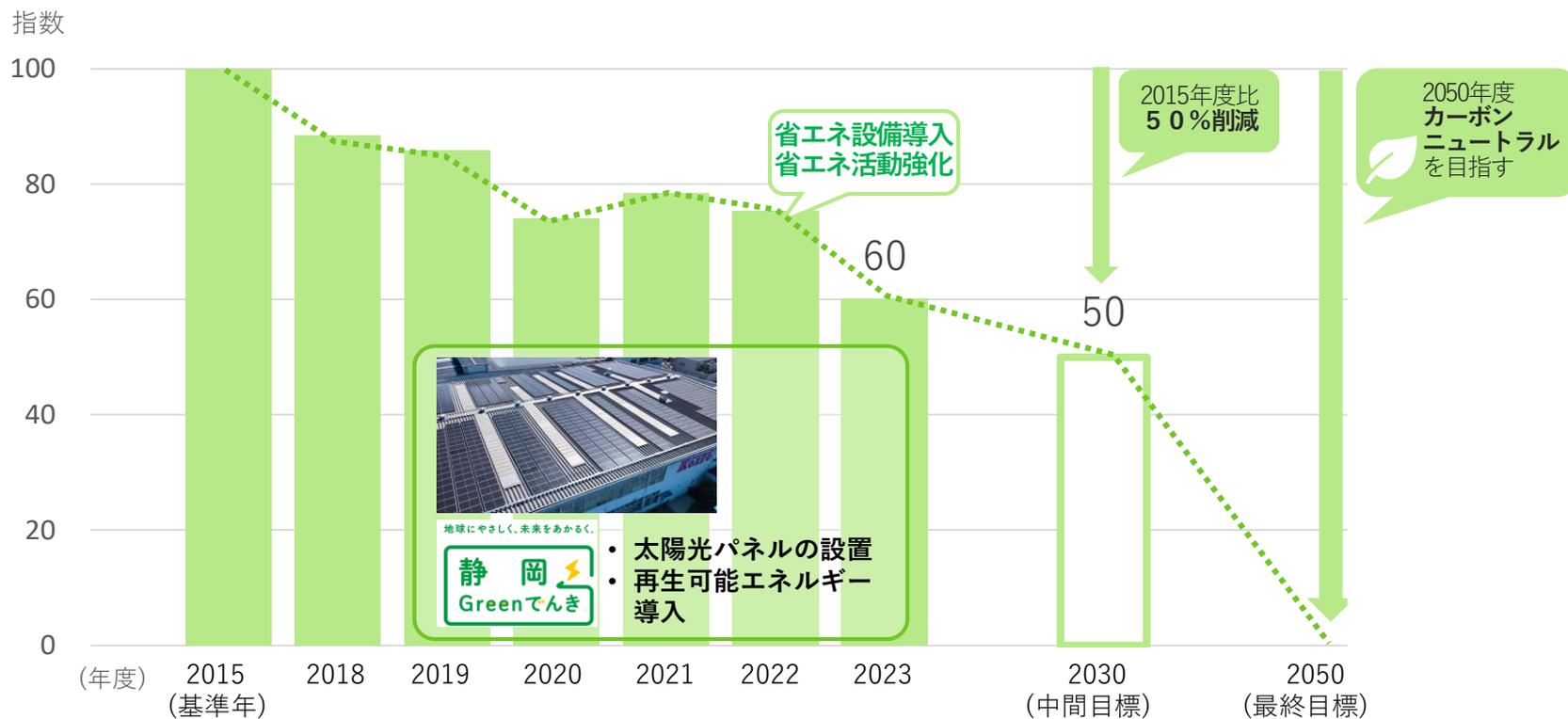
環境にやさしい製品を  
つかう

- ・LEDランプ等、省電力ランプの搭載
- ・ランプの軽量化による低燃費への貢献

# カーボンニュートラルへの取り組み

- 2030年度のCO2排出量を2015年度比50%削減  
2050年度のカーボンニュートラル達成を目指す

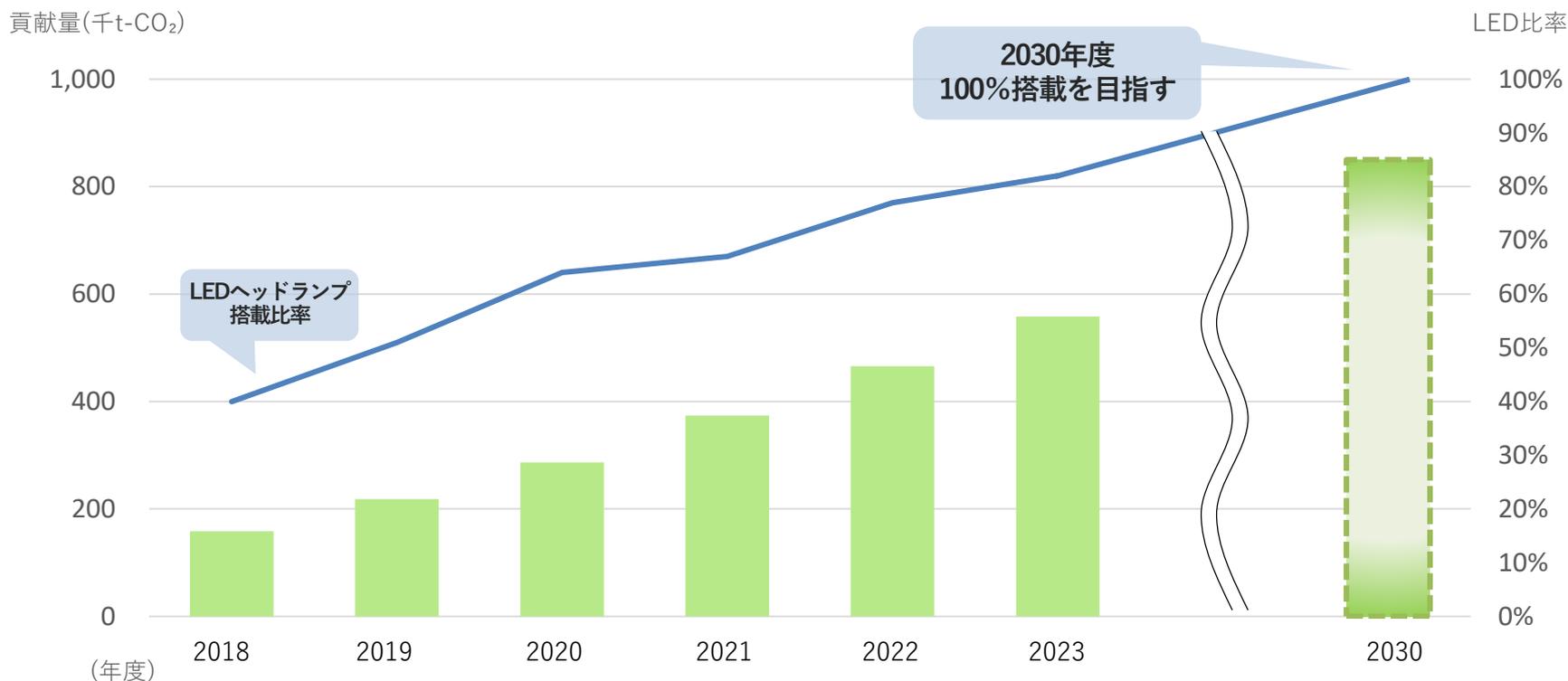
## 【CO<sub>2</sub>排出量の推移】



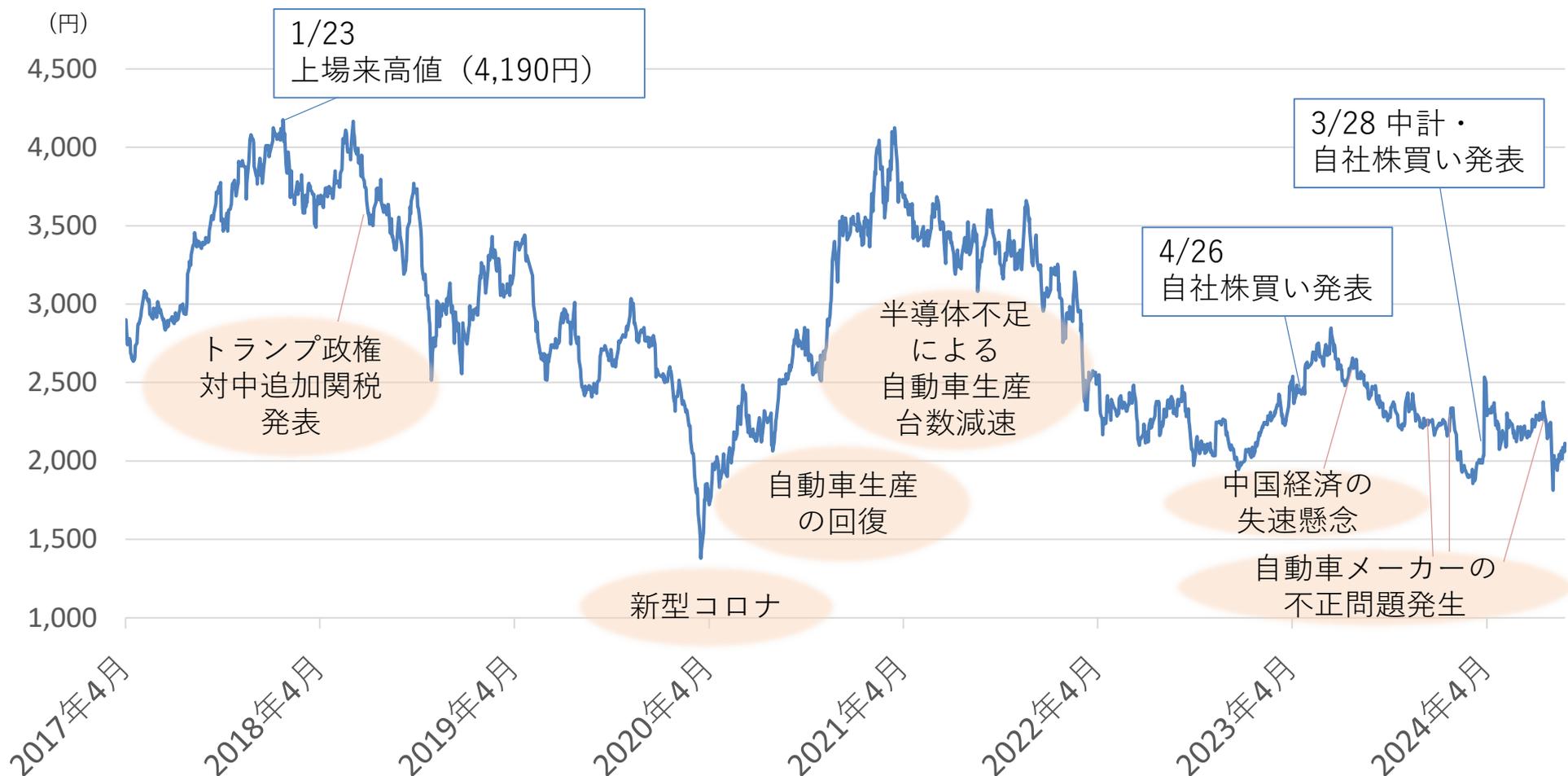
# カーボンニュートラルへの取り組み

- LEDヘッドランプは、従来のランプに比べて省電力搭載によりCO<sub>2</sub>排出削減に貢献するランプ
- 電費が重要なEV車をはじめ普及が進展、削減貢献量も増加

## 【LEDヘッドランプによるCO<sub>2</sub>排出削減貢献量の推移】



# 株価の推移



※2022年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。  
株価は、表示されている最も古い期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

# ディスクレイマー

本資料に記載されている小糸製作所、及び関係会社の計画や業績に関する予想、及び見通しの記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断し仮定した見込みです。

また、経済動向、自動車産業界における激しい競争、市場動向、為替レート、税制や諸制度などに関わるリスクや不確実性も含んでいるため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性のあることを、ご承知おき願います。